

平成 27 年 11 月 8 日
千葉木鶏クラブ
(366 回 例会)


孔子と『論語』(第 12 回)

「祇園精舎、鐘の音、諸行無常のひびきあり」忌中ハガキが届くたびに思いが強くなります。

諸行は無常なれど、第 12 回目となる安岡先生による「論語講話」、前回に続いて政治の大原則である「信」について語っていただきます。

そして、締めとして鈴木岳靖先生から資料に基づいて『漢詩』を皆さんと吟詠。どなたでもいつでも歓迎の千葉木鶏クラブです。皆様のお越しをお待ちしています。

記



日時に注意し
て下さい。

1. 日 時 : 平成 27 年 11 月 21 日 (土)
PM 16 時 00 分 ~18 時 00 分

2. 場 所 : 千葉生涯学習センター ☎043-207-5811
<交通案内> JR 千葉駅東口から 徒歩 8 分 駐車場有り

3. 会 費 : 1000 円

4. 演 題

第一部 『論語』から「食」と「兵」と「信」

信なくんば立たず (政治の大原則) 別紙参照

『論語』顔淵第十

<要点>

- ・政治の大原則は、経済と軍備と政治に対する信頼である。
- ・アメリカの心理学会に発表された碩学ルネ・デュボス教授の研究報告

第二部 『東洋学と詩吟』

指導 鈴木 岳靖 先生 (日本詩吟学院)

以上

[千葉木鶏クラブ](#) 代表兼事務局 [丸島 忠夫](#)

[Email : marushima_t@snow.plala.or.jp](mailto:marushima_t@snow.plala.or.jp) [Tel : 0475-25-1211](tel:0475-25-1211) [Fax:0475-38-5153](tel:0475-38-5153)

第 12 回 「食」と「兵」と「信」

「安岡正篤」講和選集より『孔子と論語』

＜ 信なくんば立たず ＞ 政治の大原則

子貢、政（まつりごと）を問う。子曰（のたま）わく、食（しょく）を足し、兵を足し、民（たみ）之（これ）を信（しん）にす。

子貢曰（いわ）く、必（かなら）ず已（やむ）むとを得（え）ずして去（さ）らば、斯（こ）の三者に於（おい）て何（いず）れをか先にせん。曰（のたま）わく、兵を去らん。曰（い）わく、必ず已むことを得ずして去らば、斯（こ）の二者にて於（おい）て、何（いずれ）をか先にせん。曰（のたま）わく、食を去らん。古自（いにしえより）り皆（みな）死有り、民（たみ）信（しん）無くんば立たず

顔淵第十二

＜ 意味は ＞

・子貢が政治の要道（大切な道）を尋ねた

先師が答えられた、「食（食糧）を豊かにし、兵（軍備）を充実し、民には信（道義）持たせることだ」

子貢が尋ねた。

「どうしてもやむなく、捨てなければならぬときに、この三つの中どれを先にすればよいのでしょうか。

先師が言われた。

「兵をすてよう」

子貢が更に尋ねた。

「どうしてもやむをえなくなるときに、この二つの中にどれを先にすればよいのでしょうか。

先師が言われた。

「食をすてよう。昔から食の有無にかかわらず、人は皆死ぬものだ。然し人には信がなくなると社会はなりたたない。

※ 信にす、これを信ぜしめよとよんで、政治家を信頼させるという解釈もある

- 政治の大原則は、経済と軍備と政治に対する信頼である。
- アメリカの心理学会に発表された碩学ルネ・デュボス教授の研究報告
- カート・リヒター教授の研究発表 実験室で飼育されたネズミと野生のネズミとの比較研究。
- デュボス教授の結論

人間がただ安全だとか、快適とか、苦痛や努力を必要としない無風状態・無菌状態のような生活環境をつくって鼓腹謳歌することができれば、また生活を人生をエンジョイすることができれば、それが平和・幸福・進歩であると考えるのは、医学的にみても間違いである。

社会医学的にみても危険である。

(R・デュボス「医学的ユートピア」／「アメリカカーナ」第六卷四号)

責了